

Ⅳ. 調査結果の総合まとめ

【各調査項目とそのポイント】

I. RESAS(地域経済分析システム)調査

・大河原町のほか必要に応じ仙南各市町、仙台圏南部(仙台市、名取市、岩沼市)も含めて調査を実施

1. 人口構成・動態

・消費の原動力である人口や稼ぐ力の源泉である生産年齢人口の動向を調査

(出産・死亡による自然増減、転入・転出による社会増減)

・通勤・通学による人口流出・流入調査、特に人口流出先の調査(稼ぎ先調査)

2. 地域経済循環分析

・生産→所得→支出の経済循環調査

・なかでも民間消費支出の域内外の区分調査を実施(どの地域の顧客から売上げを得ているか)

3. 産業構造・特化係数

・全国平均業種構成比と比較して地域の構成比が相対的に大きい業種は当該地域の特化された業種であると目安である特化係数の算出(業種ごとの付加価値額をベースとする)。

・加えて事業所あたりの付加価値規模を計算し、業種を支える平均的な事業規模から小規模企業の役割を推察する。

Ⅱ. 大河原町景況調査

・県連景況調査に準じて、大河原町商工会員 32 企業を対象に調査を実施。

・景況感を売上(建設業においては完成工事額)、採算、資金繰り、業況(自社)について調査

・その他投資実績、投資見込み調査、経営課題調査

・主要項目について宮城県、全国との比較(県連調査結果を活用)

Ⅲ. 県関連調査

1. 県連景況調査

・宮城県商工会連合会メンバーである県下 10 商工会原則計 150 企業を対象に調査を実施。

・製造業、建設業、小売業、サービス業別に景況指標を取りまとめ、主要項目については全国・東北の指標と比較調査

・その他投資実績・見込みの調査、経営課題の調査を実施

2. 県景況調査

・宮城県統計課が毎月県内の経済動向を調査

・生産、住宅投資、公共投資、個人消費、雇用、企業倒産別に動向指標を開示

3. 県消費者の購買動向

・子育て世代の家庭を対象に、県下市町村別に消費動向の調査

・最寄品、買回品、サービス別に購買や利用動向の調査を実施

・購買先及び選択理由、・商店・商店街への期待

・購買先地域の分析(地元、大河原町、仙台圏の比較)

3. 県観光動向

- ・観光客入込数、宿泊数の時系列把握
- ・観光産業、宿泊業への基礎データの提供

● 以下に調査項目の要件を下記に一覧する。

		調査 主体	調査(最 小)単位	調査項目	調査概要 (赤字は追加分析項目。青字はデータ更新)	調査方法・企業 規模等	備考 (調査年等) (青字はデータ更新事項)
I	RESAS 調査	総 務 省	市町村	人口動態	・人口 ・人口増減 ・流出・流入(通勤・通学) ・流出(～昼間の人口移動)先の分析	大河原町中心	2020年 但し転出入は 2022年統計
				地域経済 循環分析	生産・所得・支出の 分析及び循環分析 民間消費支出の分析	大河原町中心	2018年 数値更新
				産 業 構 造・特 化 係数	大分類・特化係数、 事業所規模等	大河原町中心 全規模の企業	2021 年新規 データ
II	大河原町 景況調査	大河原 町商工 会	大河原町	景況調査	・景況指標 ・設備投資 ・経営課題	大河原町小規模 企業中心にアン ケート調査	2024 年10月 から12月
III	1.県連景 況調査	宮城県 商工会 連合会	宮城県	景況調査	・景況指標 ・設備投資 ・経営課題	県及び全国の小 規模企業中心に アンケート調査	2024年 7 月 ～9 月
	2.県景況 調査	宮城県	宮城県	景況調査	・月単位の 景況動向	県の全規模の企 業等の実績	2024 年11月 中心
	3.県消費 者の購買 動向	宮城県	県市町村	消 費 者 行 動調査	・商圈 ・購買先及び選択理 由 ・商店・商店街への期 待 ・購買先地域の分析 (地元、大河原町、仙 台圏の比較)	・アンケート世 代:30 代～50 代(子育て世代) ・BtoC 企業向 けの消費動向調 査	2021 年 10 月 (次回 2024 年 10 月:報告書 未発表)
	4.県観光 動向	宮城県	県市町村	入 込 数・ 宿泊数	主要観光地別調査	大河原町中心	～2023年

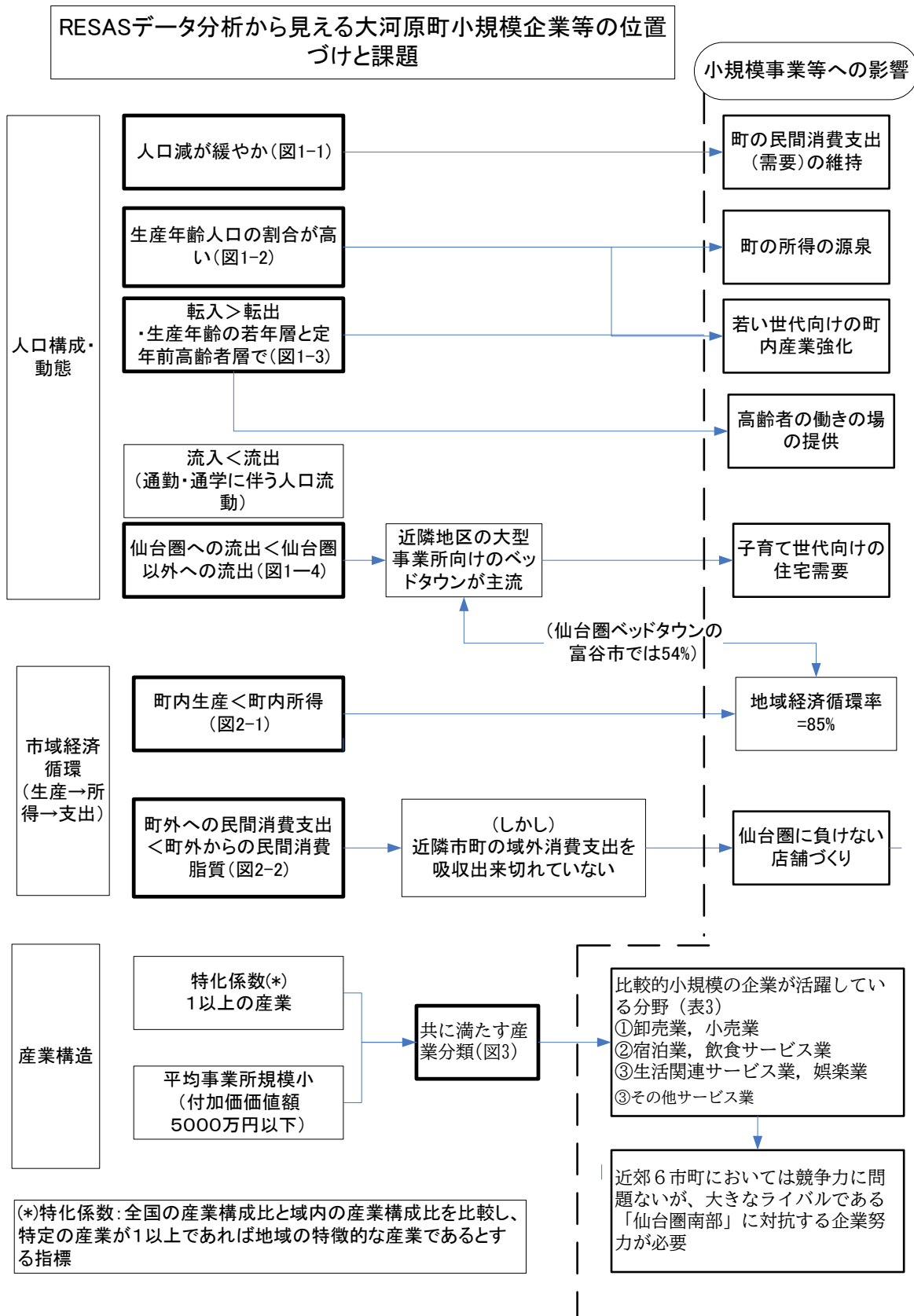
● 各調査の対象地域を下記に一覧する

		調査項目	調査概要	対象の調査・分析範囲				
				大河原町	仙南地域	仙台圏	宮城県	全国
I	RESAS調査	人口構成・動態	・人口 ・人口増減	◎	○比較対象	△参考		
			・流出・流入(通勤・通学)・流出(～昼間の人口移動)先の分析	◎	○比較対象	○流出先分析対象		
		地域経済循環分析	生産・所得・支出の分析及び循環分析 民間消費支出の分析	◎	○比較対象	△参考		
		産業構造・特化係数	大分類・特化係数、事業所規模等	◎ 全事業所統計	○比較対象			特化係数算出基準値
II	大河原町景況調査	景況調査	・景況指標 ・設備投資 ・経営課題	◎ 小規模企業等			△比較	△比較
III	1.県連景況調査	景況調査	・景況指標 ・設備投資 ・経営課題				◎ 小規模企業等	○比較対象(東北を含む)
	2.県景況調査	景況調査	・月単位の景況動向(実績中心)				◎ 全企業	△比較
	3.県消費者の購買動向	消費者行動調査	・商圈 ・購買先及び選択理由 ・商店・商店街への期待 ・購買先地域の分析(地元、大河原町、仙台圏の比較)	◎BotC 企業向け	○比較対象	○商圈比較対象		
	4.県観光動向	入込数・宿泊数	主要観光地別調査	◎観光業	○参考		基準値	

【各調査結果の概要】

I .RESAS 調査

● 全体図



● 各調査結果の主要図(大河原町の特徴)

図 1-1 人口減が緩やか

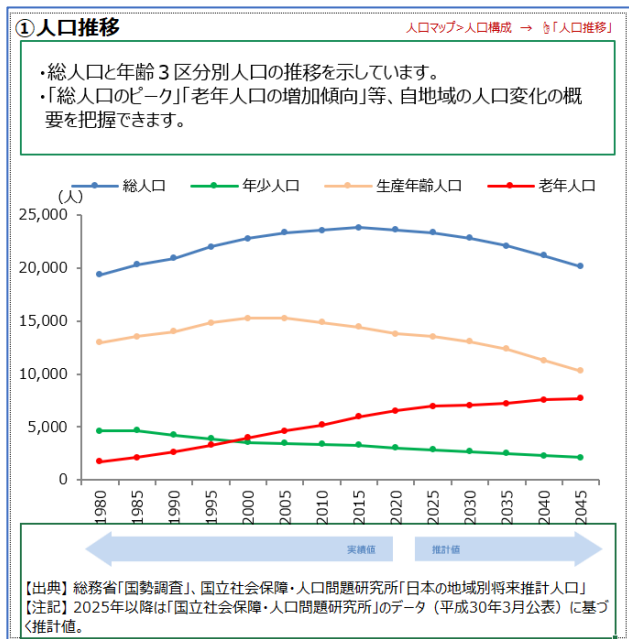


図 1-2 生産年齢人口比率が高い

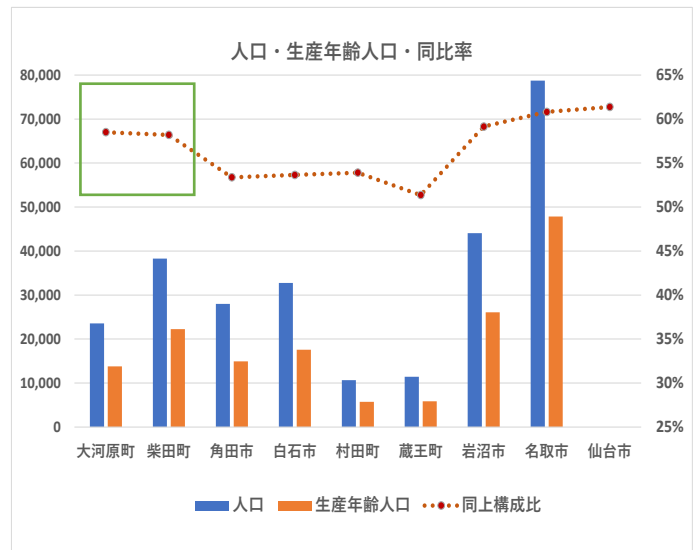


図 1-3 人口増（～転入増）の年齢層

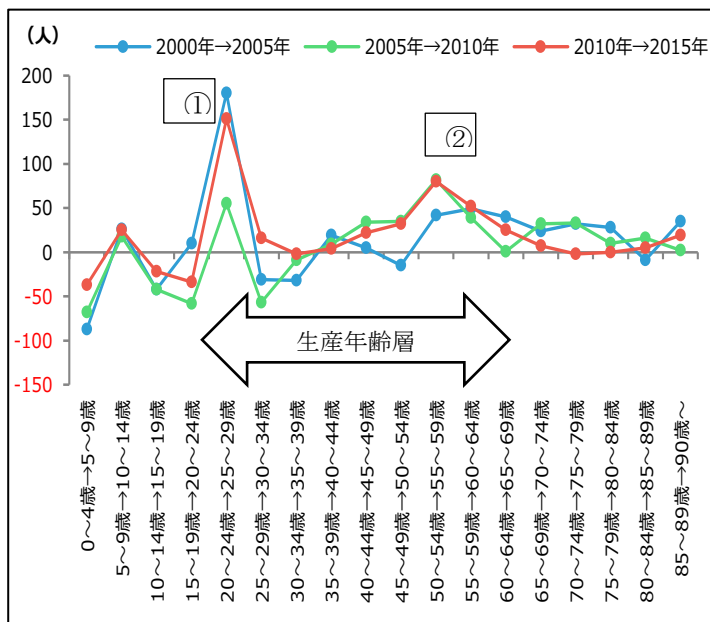


図 1-4 仙台圏南部とその他への流出数の比較

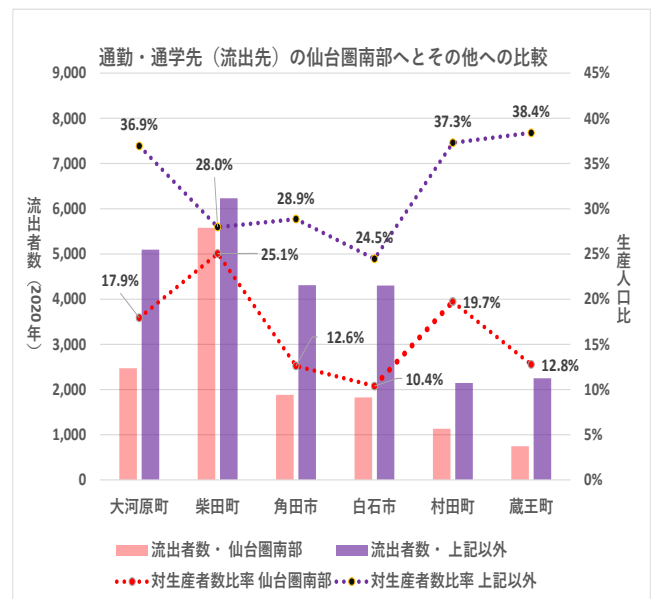


図 2-1 市町内生産と地域経済循環率（生産÷所得）の比較

図 2-2 市町内消費の源泉の比較（市町民による消費+市町外からの消費-市町外での消費）
・入－出：大河原町はプラス、柴田町、角田市、白石市はマイナス

図 2-1

図 2-2

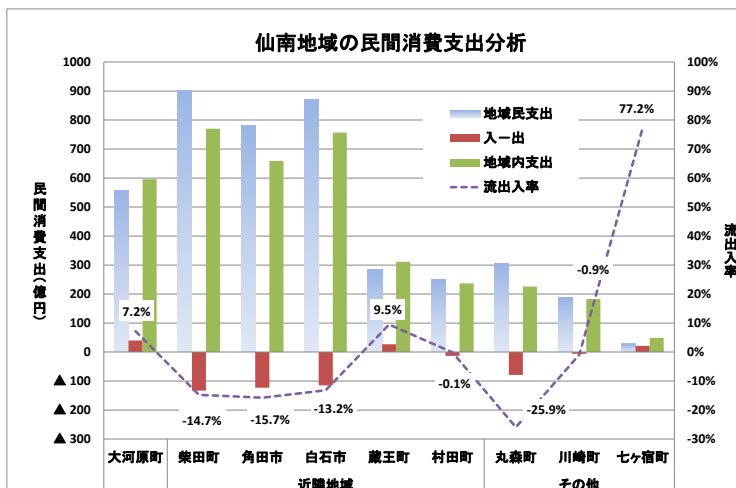
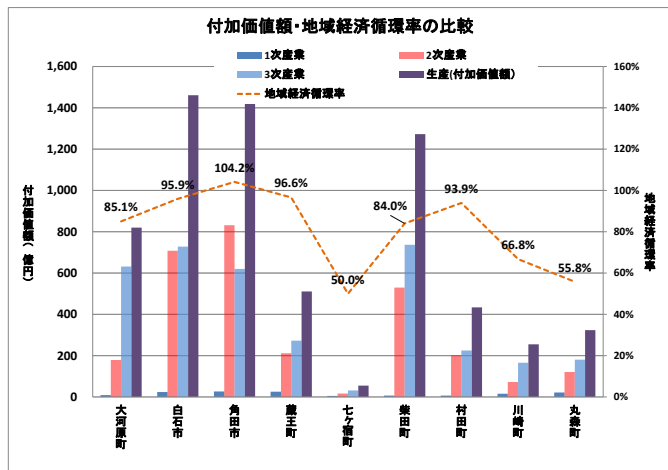
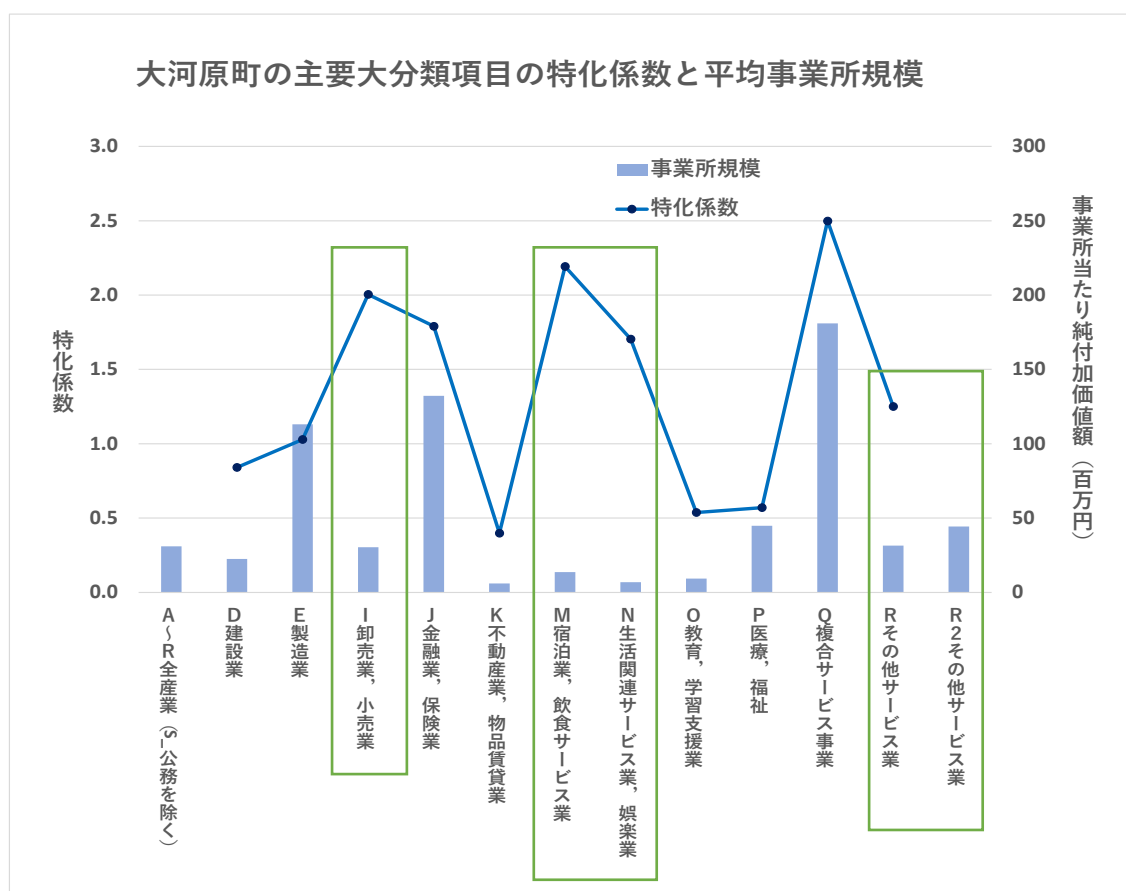


図 3 大河原町の産業大分類別特化係数と事業所規模（事業所当たり付加価値）
（枠内大分類は共に特化係数＞1、事業所規模＜5000万円）



Ⅱ.大河原町景況調査

・「宮城県商工会地区中小企業景況調査結果」に加えて、大河原町商工会で独自に追加調査し、製造、建設各 6 企業、小売業、サービス業計各 10 企業を対象として調査結果をまとめた。

・DI 調査：本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

⇒DI 値＝（増加企業数－減少企業数）÷調査企業数×100

・設備投資：小売業、サービス業について設備投資の実施割合、実施対象について宮城県全体と大河原町の状況を比較した。

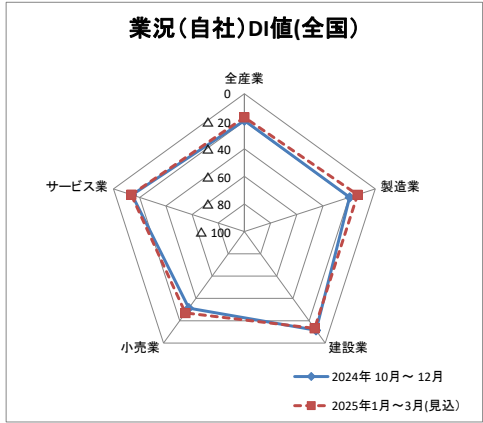
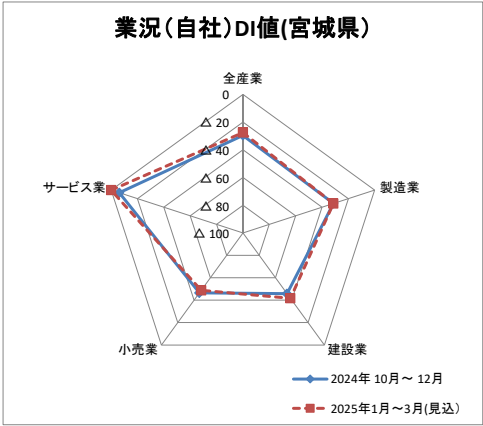
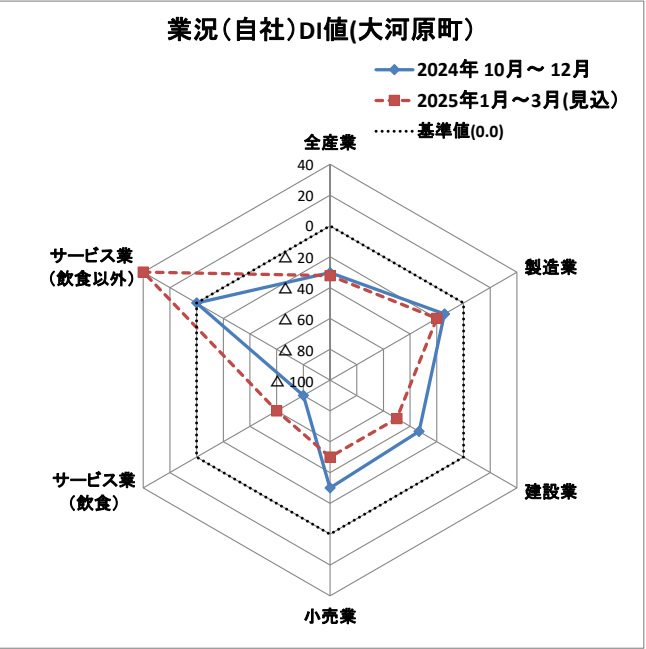
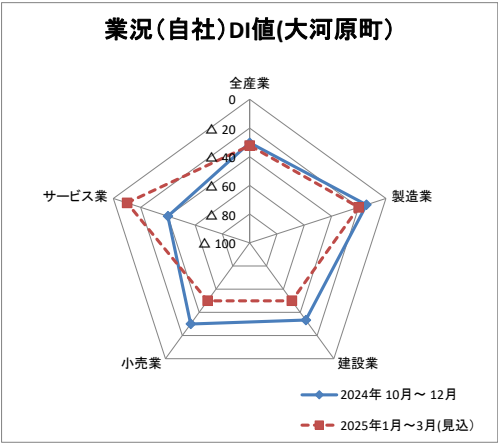
経営上の問題点：調査先各企業が 1—3 位までの経営上の問題点として記入した結果を整理したものである。

⇒重要度指標＝1 位(%)＋[2 位(%)÷2]＋[3 位(%)÷2]

1.産業別の業況（自社）の DI 値

● 大河原町

業況(自社)	2024 年 10 月～12 月	2025 年 1 月～3 月(見込)
全産業	△ 30.3	△ 32.3
製造業	△ 14.3	△ 20.0
建設業	△ 33.3	△ 50.0
小売業	△ 30.0	△ 50.0
サービス業(飲食)	△ 80.0	△ 60.0
サービス業(飲食以外)	0.0	40.0



● 大河原町、宮城県、全国の業況（自社）の DI 値比較

- 大河原町では、同じサービス業でも飲食業と飲食業以外の業況（自社）の差が大変大きい。
- サービス業全体の評価を除くと、今期(2024年10－12月)の業況判断は全国＞大河原町＞宮城県の順である。サービス業全体では全国＞宮城県＞大河原町の順である。
- 来期(2025年1－3月期)の見通しは、大河原町の建設業、小売業はやや悪化の見通しである。

2.設備投資（小売業、サービス業）

大河原町の設備投資状況との比較は次の通りである。

		2024 年 10 月～ 12 月	2025 年 1 月～3 月(見込)
小売業	実施割合	20.0%	10.0%
	実施対象	車両・運搬具	車両・運搬具、付帯施設
サービス業	実施割合	40.0% (飲食店以外に限ると 60%)	40.0% (飲食店以外に限ると 60%)
	実施対象	土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器	土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設

3.経営上の問題点

● 小売業

「需要の停滞」と「仕入単価の上昇」が最も大きい。

順位	大河原町小売業上位 3 件	重要度
1	需要の停滞	50.0
1	仕入単価の上昇	50.0
3	人件費の増加	20.0

● 飲食業

「利用者ニーズの変化」が最も大きい。

順位	大河原町飲食業上位 3 件	重要度
1	利用者ニーズの変化	50.0
2	材料等仕入単価の上昇	40.0
3	需要の停滞	30.0

● 飲食業以外のサービス業

「人件費の増加」が最も大きい。次いで、飲食業と同じく「利用者ニーズの変化」を重要視している。

順位	大河原町飲食業以外上位 3 件	重要度
1	人件費の増加	40.0
2	利用者ニーズの変化	30.0
3	従業員の確保難	30.0

Ⅲ. 県調査

1. 県連景況調査

(省略：宮城県商工会連合会のホームページ参照方)

<https://www.miyagi-fsci.or.jp/businessreport/>

2. 県景況調査

【みやぎ経済月報要約宮城県の経済概況(令和7年1月31日公表)の要約】

(統計課資料 第1588-10号みやぎ経済月報(2025年1月号) 令和7年1月31日)

● 本県の経済概況

11月を中心とした宮城県経済の概要			
緩やかに持ち直しているものの、弱い動きもみられる。			
○前回公表分からの変更点(前月号の表現)、なし。			
(変化方向※)		➡	➡
		12月号	1月号
※ 矢印により表現の上方・下方修正を示しています。			
絶対的な好況・不況の水準や方向感を示すものではないことに御留意願います。			

○前回公表分との比較(下線部は変更箇所)

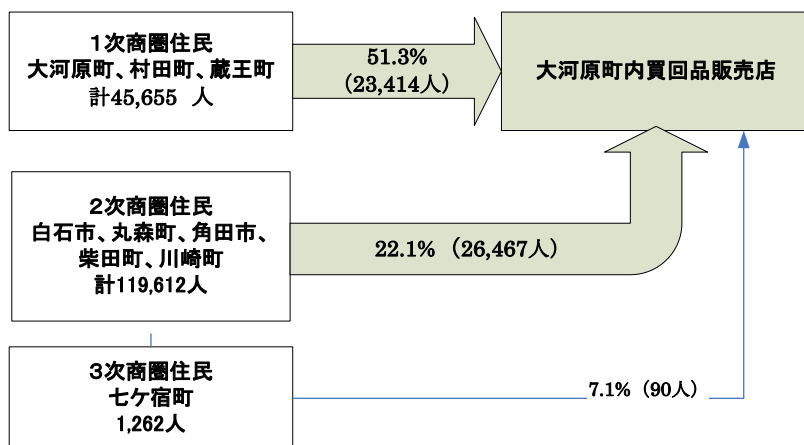
個別指標	前回公表分 (2024年12月号)	今回公表分 (2025年1月号)	変化方向※
生産	持ち直しの兆しがみられる。	持ち直しの兆しがみられる。	➡
住宅投資	弱い動きとなっている。	弱い動きとなっている。	➡
公共投資	<u>横ばい圏内の動きとなっている。</u>	<u>弱めの動きとなっている。</u>	↘
個人消費	回復の動きに足踏みがみられる。	回復の動きに足踏みがみられる。	➡
雇用	持ち直しの動きが弱まっている。	持ち直しの動きが弱まっている。	➡
企業倒産	増加している。	増加している。	➡

● 宮城県・全国・東北の景況感の概要

対象	調査部門	記述
宮城県	宮城県	緩やかに持ち直しているものの、弱い動きもみられる。
	七十七リサーチ&コンサルティング(株)	最近の県内景況をみると、総じて足踏みしている。
全国	内閣府	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。
	日本銀行	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
東北	東北経済産業局	緩やかに持ち直している。
	日本銀行仙台支店	東北地域の景気は持ち直している。

3.県消費者の購買動向(2021 年 10 月調査)

3.1 人口比率で白石ブロック(仙南 9 市町)の 30%



3.2 大河原町地元購買率・買物先店舗形態・店舗場所・選択理由

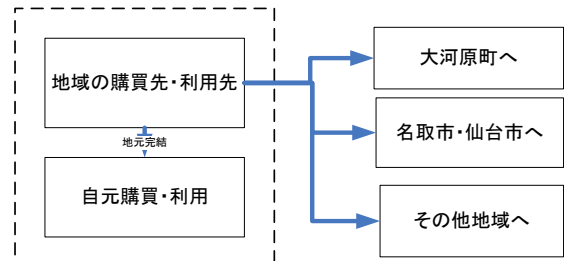
	最寄品	買回品	サービス
地元購買率	79.9%	55.1%	79.7%
買物先店舗形態	① 食品スーパー(53.9%) ② 大型専門店・量販店(17.2%) ③ 百貨店・総合スーパー(11.6%) ④ 生協・農協(6.5%) ⑤ 一般商店・専門店(5.9%)	① 大型専門店・量販店(45.6%) ② ネットショップ等(18.1%) ③ 百貨店・総合スーパー(16.4%) ④ 一般商店・専門店(14.3%)	
買物先店舗場所	① 中心部(51.4%) ② 郊外(バイパス沿い等)(43.1%)(*) ③ その他(5.5%)	① 郊外(バイパス沿い等)(47.4%) ② 中心部(34.2%) ③ その他(18.4%)	① 郊外(バイパス沿い等)(63.7%) ② 中心部(28.6%) ④ その他(7.7%)
買物先の選択理由	(食料品)(上位 4 位まで) 近くて便利 35.9% 価格が安い 18.8% 品数が豊富(*) 12.8% 品質が良い(*) 10.7% (日用雑貨) 品数が豊富 25.3% 価格が安い 19.2% 近くて便利(*) 16.7% 品質が良い(*) 13.5%	(衣料品)(上位 6 位まで) 近くて便利 32.6% 品数が豊富(*) 17% 価格が安い 15.6% 一か所で買い物ができる 9.7% ポイントカード等がある 8.3% 品質が良い(*) 5.6%	
地元商店・商店街に求める役割(上位 4 位まで)	① 日用品・食料品の販売(25.6%) ② オリジナル商品・限定品等の販売(16.6%)(**) ④ 地域コミュニティの拠点(12.3%)(**)、④ まちのにぎわい創出の担い手(12.3%)		③ 外食サービスの提供(14.3%)

- 白石ブロック平均に比べて大河原町に特有な選択理由・要望
 (*)大河原町民の買物先選択理由には、「価格が安い」の他に「品ぞろえや品質」で買物先を選択する割合が白石ブロック（仙南地区）内で相対的に大きい。
 (**)地元商店・商店街に「地元ならではの商品・サービスの提供のニーズ」の他、「地域コミュニティの拠点（地域の交歓の場）を求めるニーズ」が大きい。

3.3 各市町の買物先の分析(新規分析:右図)

白石ブロック（仙南 9 市町から:from）の買物（利用）先区分（へ:to）の状況

◎：50%以上；○：25%以上；△:10%以上；▲：10%未満；無記入：調査結果 0%



- 最寄品(近郊 6 市町では村田町を除き、地元での購買が 50%を超える)

区分		大河原近郊 6 市町						その他		
購買元市町(from)		大河原町	村田町	蔵王町	柴田町	角田市	白石市	丸森町	川崎町	七ヶ宿町
購買先(to)	大河原町	(=地元)	○	△	▲	▲	▲	▲	▲	
	名取市・仙台市	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	◎	
	地元	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	▲
	その他	△	△	○	▲	△	▲	○	▲	◎

- 買回品(全体としては大河原町、名取市・仙台市との吸引争い)

区分		大河原近郊 6 市町						その他		
購買元市町(from)		大河原町	村田町	蔵王町	柴田町	角田市	白石市	丸森町	川崎町	七ヶ宿町
購買先(to)	大河原町	(=地元)	○	○	△	△	○	△	△	▲
	名取市・仙台市	△	○	○	○	○	△	○	◎	○
	地元	◎	▲	▲	○	○	○	▲	▲	
	その他	△	△	△	△	△	△	○	△	◎

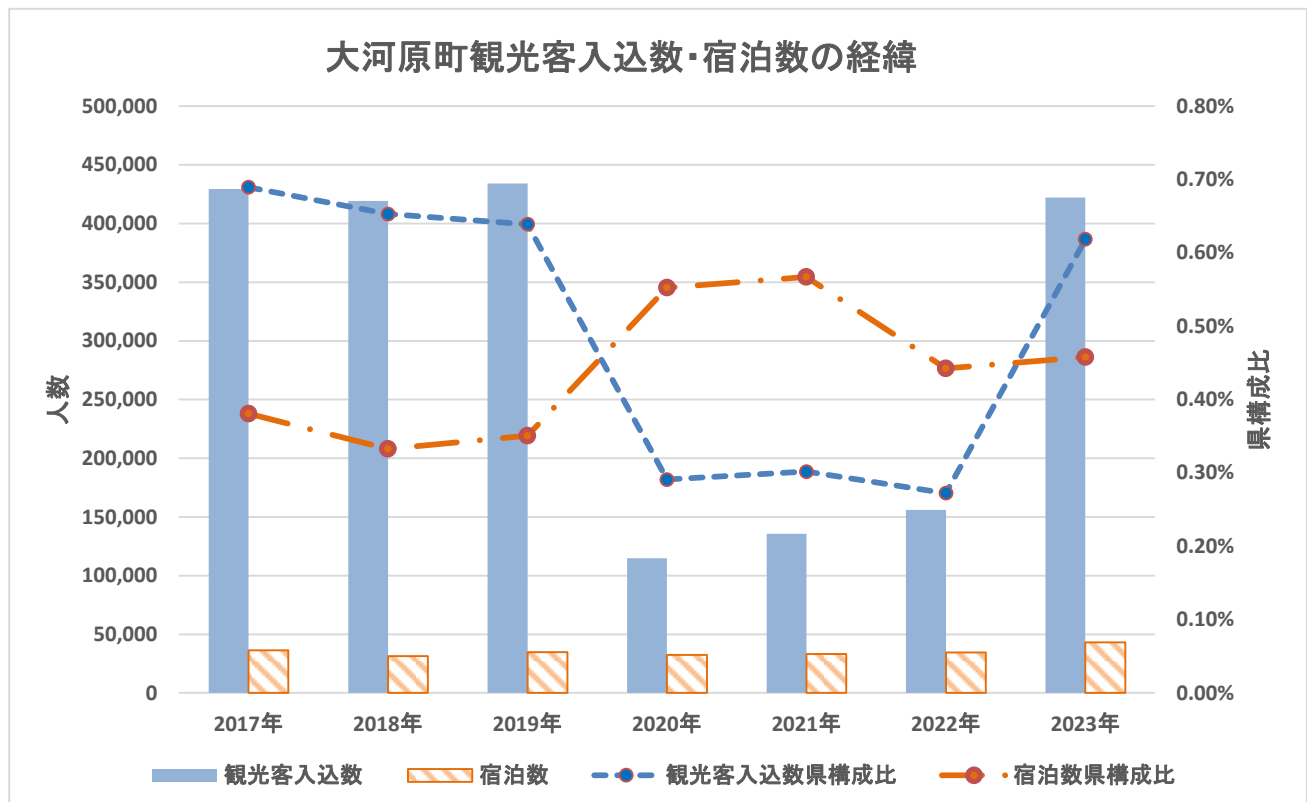
- サービス(家族連れ外食)(村田町、蔵王町では大河原町の吸引力が 50%以上)

区分		大河原近郊 6 市町						その他		
購買元市町(from)		大河原町	村田町	蔵王町	柴田町	角田市	白石市	丸森町	川崎町	七ヶ宿町
利用先(to)	大河原町	(=地元)	◎	◎	○	○	△	○	△	
	名取市・仙台市	△	△	△	○	○	△	○	◎	
	地元	◎	▲	▲	○	○	○	▲	▲	
	その他	▲	△	△	▲	△	△	△	△	◎

- 大河原町が仙台圏（名取市・仙台市）に対抗して、買回品、サービス（家族連れ飲食）の依存度を高めるためのポイントは次の通りである。
- ① 買回品については大河原町は特徴ある商品、あるいは付加価値としてのサービス提供（買い物のアドバイスなど）が必要である。
- ② サービス（家族連れ外食）は買回品に比べ、名取市・仙台市の影響は比較的小さい（地の利の優位性がある）。仙台圏で受けられるサービスと同等か、または特徴あるサービスの提供が依存度（吸引力）を高めるために必要となる。

4.県観光動向

- 入込数の内訳・宿泊数の年別経緯図（延べ人数）



- 入込数の内訳・宿泊数のまとめ（延べ人数）

	地点区分	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
入 れ 込 み 数	おおがわら桜まつり	250,000	0	0	0	222,000
	おおがわら天然温泉いゝ湯	150,176	102,043	120,746	136,160	154,775
	その他	34,050	12,700	14,900	19,800	45,300
	大河原町計	434,226	114,743	135,646	155,960	422,075
宿泊数	大河原町計	34,664	32,414	33,142	34,421	43,189

【追記メモ】

● 調査結果の主要な活用ポイント

以下に調査結果を一覧して活用ポイントをまとめる。

		調査概要	町内小季語企業等の持続化・成長・起業等への活用ポイント
I	RESA 調査	・人口 ・人口増減 ・流出・流入(通勤・通学) ・仙南 9 市町の流出先分析 ・生産・所得・支出の分析及び循環分析 ・域内民間消費支出の内訳分析	・転入する若い生産年齢層に対する住宅供給や住居斡旋事業の発展 ・大河原町がベッドタウン機能を有することによる子育て世代への新たなサービスの提供等 ・仙台圏に流れがちな仙南市町の民間消費支出を大河原町に呼び込む工夫(仙台圏の商店等に負けない工夫)に繋げる。
		大分類別付加価値額、特化係数、事業所数	大河原町に特徴的でかつ小規模な事業所が活躍している産業分野の抽出
II	大河原町景況調査	・大河原町内小規模企業等の景況指標、設備投資状況、経営課題	・町内の多くの小規模企業等と大河原町商工会で景況を共有することで今後の成長を得るための糧とする。 ・大河原町内の事業者の景況等の現状と今後の見通しの把握を通じて、大河原町商工会の会員等への支援の方向性のデータとして活用
III	1. 県連景況調査	・宮城県下・全国の小規模企業等の景況指標、設備投資状況、経営課題	・大河原町景況調査と宮城県、全国と比較することで大河原町の景況等の立ち位置を確認するための情報とする。
	2. 県景況調査	・宮城県の月単位の景況動向	・宮城県内の生産、住宅投資、公共投資、個人消費、雇用、企業倒産の動向把握がなされており、大河原町内の個別間企業への需要動向の糧とする。
	3. 県消費者の購買動向	・商圈 ・購買先及び選択理由 ・商店・商店街への期待 ・仙南 9 市町の購買・利用先分析	・消費者から見た、町内企業への要望につながるデータとして活用(町内 BtoC 企業の在り方への参考となる重要な調査結果) ・大河原町商圈と名取市・仙台市商圈とのライバル関係の現状から今後の課題の抽出へ
	4. 県観光動向	観光客入込数、宿泊数の年次動向	・2023 年より大河原桜まつり再開による飲食業等への影響を図る基礎資料

<その他気づき事項>

- 大河原町の消費者は、仙南地区の中では都市圏の消費者の購買行動に類する部分が多い。
 - 最寄品では、競合相手は地元大手小売店であり、買回り品では地元大手だけでなく都市圏（仙台、名取等）の大手小売店との差別化や棲み分けを考えていく必要がある。
 - サービス提供では都市圏の嗜好を逸早く取り入れていくことが有効であろう。価格だけでなく、良い品質、品ぞろえの多様性を求める傾向が強い。また、単に消費者の購買行動対応だけでなく、同時に地域のコミュニティに寄与することも求めている。
- 何れの業種においても、大規模な販売店、サービス店では求められない小規模企業ならではの木目の細かい取り組みが重要であることを示すものである。例えば地元特有の製品・商品の開拓、またはブランド化が可能な製品・商品の開拓が今後の発展の鍵である。